

環境活動支援センターえこらぼの活動

(環境共生課)

1 概要

県民の行う環境活動に対する支援や環境学習及び地球温暖化防止活動の推進拠点となる「環境活動支援センターえこらぼ」は、平成18年4月に開設され、環境情報の発信や環境学習講師の派遣、環境イベントの開催などの事業を実施しています。

2 令和元年度の主な活動実績

(1) 情報発信

メールマガジンやホームページなどで、イベント情報の紹介や、環境活動団体及び環境学習講師の情報を提供しました。

(2) 環境学習の支援

環境学習講師の紹介・派遣により地域や学校での環境学習の支援を行いました。

また、環境学習の機会を提供するため、環境絵日記コンテストを開催しました。

さらに、環境省が行うこどもエコクラブ事業の県事務局として、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に行う環境学習や実践活動を支援しました。

ア 環境学習講師派遣

学校や地域のイベントなどへ、えこらぼに登録している環境学習講師を紹介・派遣しました。

講師紹介・派遣件数：65件

環境学習受講者数：2,891人

イ 環境絵日記コンテスト

県内の小学生を対象に、環境について考え、行動したことを絵日記に表現することで環境への意識や理解を育むことを目的とした「環境絵日記コンテスト」を実施しました。

参加学校数：85校

応募作品数：3,864作品



高知「環境絵日記」表彰式(令和元年11月10日)

ウ こどもエコクラブ事業

令和2年2月2日に開催しました「こうち環境博2020」において、こどもエコクラブ壁新聞展と交流発表会を行いました。

こどもエコクラブ登録数 11クラブ

(令和2年3月31日現在)

(3) 環境学習プログラムリストの配布

学校・地域における環境学習機会の提供を拡大するため、環境学習プログラムリストを配布しました。

- ・小学校向けプログラムリスト
配布先：高知県内の小学校
- ・高等学校向けプログラムリスト
配布先：高知県内の高等学校
各市町村教育委員会など

(4) 生物多様性こうち戦略推進リーダー養成講座

「生物多様性こうち戦略」を推進するため、生物多様性の保全や普及などに関する専門性を有する先導的な人材の育成を行いました。

- ・高知市会場
日時：令和元年9月21日(土)
受講者：10名
- ・田野町会場
日時：令和元年11月17日(日)
受講者：6名

(5) 環境イベントの開催

環境活動団体や環境学習講師の活動を紹介するとともに、学校や生涯学習の場への講師派遣の普及を目的とした体験型環境学習イベントを開催しました。

日時：令和2年1月12日(日)

会場：土佐西南大規模公園ふるさと総合センター

来場者：473人

(6) こうちエコ川柳大賞

県内の自然環境、環境問題、エコに関する体験談などを五・七・五の川柳で表現するエコ川柳を募集し、応募作品について選考会を行い、大賞1作品、優秀賞3作品、入賞10作品を選考しました。

- ・第5回こうちエコ川柳
応募期間：平成31年4月16日～
令和元年5月15日
応募作品数：84作品
大賞：キャンドルの

灯りを映す わが子の目

・第6回こうちエコ川柳

応募期間：令和元年10月15日～
令和元年11月15日

応募作品数：98作品

大賞：列島に 改心せまる 風と雨

(7) 生物多様性の意義の普及・啓発

生物多様性という言葉とその意義を広く県民が理解し、一人ひとりのライフスタイルが生物多様性に配慮した行動に変わっていくように、普及啓発キットの貸出を行いました。

また、生物多様性こうち戦略の普及を図ることを目的としたシンポジウムの開催を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。

ア 普及啓発キットの貸出

生物多様性こうち戦略推進リーダーの活動支援を目的に、普及啓発キットの貸出を行いました。

活用実績：7回

イ 普及啓発イベントの開催【中止】

海の生物多様性やプラスチックごみ問題から、海の環境と人との関わりについて考えるシンポジウムの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

日 時：令和2年3月1日（日）

テーマ：深海のふしぎな生きものと海洋プラスチック汚染

環境活動支援センターえこらぼ

令和元年度管理運営団体

特定非営利活動法人 環境の杜こうち

所在地：高知市旭町3丁目115番地

こうち男女共同参画センター3F

TEL：088-802-7765 / FAX：088-802-2205

E-Mail：center@ecolabo-kochi.jp

ホームページ：http://ecolabo-kochi.jp/

コクヨ-四万十 結の森

プロジェクトへの参加

(高等学校課・四万十高校生)

1 現状と課題

四万十高校は、平成11年から普通科に「自然環境コース」を設置し、高知県の恵まれた自然環境を生かした環境教育に関する取組を積極的に行っています。

これまでに「森と川と海のつながりフィールドワーク」「屋久島研修」「黒尊研修」など幅広く環境学習を行ってきました。

2 施策の展開

(実施した取組)

コクヨ-四万十 結の森プロジェクト

(1) 目的

森と川と海のつながりや、自然と地域のつながりを知り、四万十川周辺の環境を考え行動する人材となる。

(2) 主催

コクヨ株式会社・四万十町森林組合
高知県立四万十高等学校

(3) 開催日

令和元年5月18日(土)
令和元年11月16日(土)

(4) 開催場所

四万十町大正

(5) 実施内容

- ア. 協働の森「結の森」清流度調査
参加者29名
- イ. 協働の森「結の森」植生調査
参加者35名



「結の森」清流度調査 (四万十町大正)



「結の森」植生調査 (四万十町大正)

地球環境や風力発電の出前授業

(公営企業局電気工水課)

令和元年度 出前授業実績

- ・実施回数：6回
- ・受講生徒数：延べ83名
(その他、教員・保護者多数受講)

1 概要

公営企業局は、甫喜ヶ峰風力発電所（平成16年運転開始、2基）で、地球環境にやさしい風力発電所を運営しています。

また、風力発電を通して子どもたちに地球環境への関心を持ってもらうことを目的として、職員が学校に出向き「風力エネルギー出前授業」を実施しています。

ここ数年は、県立香北青少年の家で行われている小学校5年生を対象とした宿泊研修の一コマとしても、この出前授業を活用していただいています。

2 体験を通じた学習

出前授業では、まず風力発電や環境問題についての基礎的な講義を行います。講義は、受講される子どもたちの学年を考慮した内容で実施しています。

講義終了後は、ペットボトルで風車の羽根を作成してもらいます。この羽根を風力で回して電気を起こし、発電量を計る実験を行っています。

また、授業で作成していただいた風車の羽根をご家庭の扇風機などで楽しめるように公営企業局オリジナルの手持ち棒を配布しています。

その他、公営企業局では「風力エネルギーブックレット」を作成しており、風力発電や再生可能エネルギーについてわかりやすく学習していただけるよう、出前授業の際に冊子の配布を行っています。

なお、出前授業の詳細な内容や申し込み方法については、公営企業局電気工水課のホームページに掲載しています。

※出前授業のご案内

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/koueikigyou-chiiki-demae.html>



出前授業の様子



ペットボトル風車の発電量測定風景



ペットボトル風車の羽根と手持ち棒

自然体験型学習事業

(生涯学習課)

1 現状と課題

- ・子どもたちの自然体験活動や地域と関わる機会の減少が見られ、高知の豊かな森林をはじめとする自然や地域の魅力に触れたことがなく、郷土の魅力を実感せず成長してしまう児童・生徒が増加する懸念があります。
- ・小規模学校の増加を背景に集団活動の不足が見られ、他者と協働することが苦手な児童・生徒が増える懸念があります。
- ・厳しい環境に置かれている児童生徒の割合が25.5%あり、経済的な理由で家や学校を離れた自然に関わる体験をせずに大人になる懸念があります。

2 施策の展開

(実施した取組)

子どもの生きる力を育成するために、小中学校などが学校行事として、青少年教育施設や公民館などを活用して行う、森林環境学習や自然体験などを含む2泊3日以上宿泊体験活動の経費に対して補助を行いました。

(1) 参加校・参加児童生徒 (16校・372名)

○小学校10校

香美市立片地小学校、須崎市立上分小学校、黒潮町立三浦小学校、梶原町立梶原小学校、津野町立葉山小学校・中央小学校・精華小学校、土佐清水市立足摺岬小学校・下川口小学校・三崎小学校

○中学校6校

四万十市立大川筋中学校・後川中学校、四万十町立窪川中学校、津野町立葉山中学校、南国市立北陵中学校、仁淀川町立仁淀中学校

(2) 開催場所

県立幡多青少年の家、県立青少年センター、国立室戸青少年自然の家、山村自然楽校しもなの郷(廃校活用施設)、県立足摺海洋館、香美市佐岡コミュニティセンター(廃校活用施設)、須崎市立上分公民館、黒潮町立三浦小学校

(3) 活動内容

○森林環境学習など、山や木に関わる活動

- ・森林管理局、役場職員など山の専門家を招聘し、環境面や防災面から間伐についての学習
- ・間伐材を活用した木工体験(簡易トイレ作り、鳥の巣箱作り、ベンチ作りなど)
- ・間伐林と未着手の林の実地見学
- ・食べられる野草採集
- ・のこぎりやロープを使い、基地作り

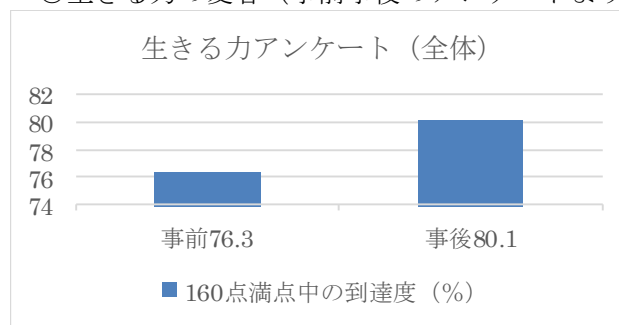
○その他の体験活動

- ・海の体験(シーカヤック、ボディボード、

- スキムボード、シュノーケリングなど)
- ・野外炊飯(防災食作り、野草調理含む)
- ・川の体験(アメゴ釣り、川エビ採り)
- ・ウォークラリー
- ・星空観察
- ・ドラム缶風呂体験
- ・避難体験(段ボールハウス作り、ロープワーク、防災マッチの活用、簡易スリッパ作りなど)



○生きる力の変容(事前事後のアンケートより)



○学校からの意見

- ・「豊かな自然に触れ、体験活動を通じた成功体験を多く経験することができた。」
- ・「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)でも非常に評価が高く、継続していきたい。」

○保護者からの意見

- ・「今の子は特に家に帰るとゲームにとらわれる事が多いので、そこから離れ同級生と生活し、自然を題材に活動するという事はとても貴重な時間、体験になると思うので、今後もぜひ続けていってください。」

(実施しようとする取組)

令和元年度は、学校行事として実施する事業について補助を行ってきましたが、働き方改革の流れから泊をとともなう事業の精選を各学校が行っており、実施校の増加が見込めない状況です。次年度以降、青少年教育団体など、民間団体が行う1泊2日以上自然体験活動にも補助を行い、子どもの生きる力を育成していきます。

子ども地域学習推進事業 (森の子ども会議)

(生涯学習課)

1 現状と課題

本県は全国一の森林率を誇る森林県です。しかしながら、県内の小中学校校林(校有林)の7割超が「遊休」となっています。現在私立を含め19市町村の70校が学校林を保有していますが、これを活用しているのは9市町村の17校と4分の1であり、子どもたちの体験的な森林環境学習も充分とは言えません。

本事業の参加者が林業などをはじめとする森林保全の担い手となったのかどうか、検証方法を見つけ、検証することが今後の課題です。

2 施策の展開

(実施した取組)

- 1回目：令和元年7月27日(土)
テーマ「課題解決型プログラムを体験しよう」
・「世界最速のそうめん流しチャレンジ2019」に参加。
 - 2回目：令和元年9月8日(日)
テーマ「アイデアをたくさん出そう」
・竹害について考える。竹を利用した巨大ブランコやバンブーハウスを見学。
 - 3回目：令和元年10月19日(土)
テーマ「体験したことを人に伝えよう」
・森林情報交流館主催のキッズフェス出展に向けた準備。
 - 4回目：令和元年11月17日(日)
テーマ「竹の面白さをイベントで多くの人に伝えよう」
・竹を有効利用したバームクーヘン作りコーナーの出展。また竹害についてのクイズを出題。
 - 5回目：令和元年12月7日(日)
テーマ「リーダーとしてのスキルを身につけよう」
・竹を使った炊飯や竹でコップの製作を実施。リーダー能力確認試験を行い、認定証を授与。
- <場所>
- ・森林情報交流館、ほか
- <実績>
- 参加者13名(小学生9名、大学生4名)
- ・参加者満足度：95%
 - 全5回のべ参加者数49名
- 参加者と保護者の感想(アンケートより)
- ・参加者「上級生と大人を巻き込むことが可能ということ」を学んだ。

- ・保護者「日頃と異なる地域での活動を何度か繰り返し行ってもらえたこと、仲間ができたこと、立派な証書で気分を盛り上げてくれたこと、イベントで成果を出せたことなど、自身につながる良い機会に恵まれたと思います。」

3 今後の取組

小学生から大学生までの幅広い年齢層での取組が行えるよう参加者の募集の仕方を工夫しています。

すでに、中部・東部地区で実施したため、次回は西部地区で開催します。開催地周辺で林業活動をしている民間団体の協力を得て、伐採体験などの林業体験をプログラムに位置づけます。

また、より開催しやすい日程にするため、活動期間を一時期に集中させます。



森林研修センター情報交流館

森林ボランティアリーダー養成講座

(林業環境政策)

1 現状と課題

森林研修センター情報交流館は、平成11年4月に、森林及び木の文化に関する情報の収集及び提供並びに学習機会の提供と、森林に関するボランティア活動などの支援を目的とした施設として開館しました。平成18年の指定管理者制度の導入に伴い、情報交流館ネットワークを指定管理者に指定し、管理運営を行っています。

情報交流館では、高知県の自然豊かな環境を次世代に繋げ、その尊さ、素晴らしさ、大切さを伝えていく人材を育成するため、森づくり、自然体験、木工クラフトの3コースからなる森林ボランティアリーダー養成講座を開催し、13年間で延べ583人の修了生を輩出しました。より参加し易くするために、前年度に引き続き森づくり講座以外を1回～4回の短期講座で行いました。本年度も多くの方に受講していただき、情報交流館の取組の周知とボランティア確保に努めました。

(令和元年度の受講生実績は126名)



森林ボランティアリーダーの活動の様子

2 実施した取組

(1) 森づくり講座 (全12回)

チェーンソーや刈払機の技術、関係法令や安全衛生などを学び、森林整備を実践するとともに、子どもたちに森林の大切さを伝える人材を育成します。



間伐実習の様子

(2) その他の短期講座

1回～4回の短期講座を13講座開催。木工女子講座、木工クラフト講座初級、中級、竹細工講座、グリーンウッドワークなど、木工クラフトにおいてもターゲットを絞って実施しました。



グリーンウッドワーク ゴッホのイスづくり

その他、樹木医と歩く樹木観察会、里山体験講座、森づくりの基本講座、炭窯修繕研修講座、炭づくり講座、木のさじづくりなど幅広い講座を実施し、たくさんの専門家の方にご協力を頂きながら、森林に思いを寄せる人材を育成しました。



樹木医と歩く 樹木観察会の様子



里山体験講座の様子

3 今後の取組

引き続きボランティア確保とリーダーの養成が課題です。講座の修了生にボランティアとして定着してもらい、その中からリーダーとなる人材を育成する仕組みづくりを構築します。

県立牧野植物園

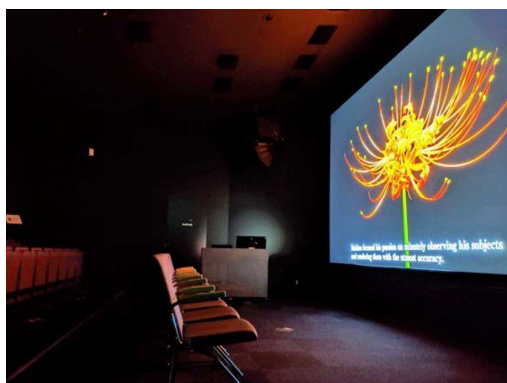
(環境共生課)

1 概要

牧野植物園は、高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰する施設として、昭和33年4月に高知市五台山に開園しました。

多様なニーズに応えるため、平成11年に「牧野富太郎記念館」、平成22年には新温室を整備し、平成30年の夜間開園の拡充、平成31年の「こんこん山広場」や「ふむふむ広場」のオープン、常設展示室のリニューアルなど、進化を続けています。

植物園地は20.5ha（うち7.8haを供用）、主要施設として、牧野富太郎記念館（本館、展示館）、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場などがあり、レストラン、ショップ、カフェも運営しています。



常設展示室「展示館シアター」

2 運営主体

公益財団法人高知県牧野記念財団を指定管理者に指定（平成28.4.1～令和3.3.31）

3 令和元年度の主な植物園活動実績など

牧野植物園では、植物に親しみながら、植物の大切さや自然環境の保護保全について改めて考えていただく機会を提供するため、各種教室やイベント、展示活動などを行っています。

(1) 植物教室

植物についての知識の普及を目的とした教室など、社会のニーズを意識した実践的かつ幅広い内容で教室を実施しています。

- ・「草花を描く」「ふれあい植物観察会」「園内薬草観察ツアー」「ハーブの教室」など

(2) 子ども自然体験教室

いろいろな体験を通して子どもたちに五感で自然を感じてもらおうことを目指して実施しています。

- ・「竹で昆虫をつくろう!」「ムクジロで遊ぼう!」「植物から色をもらって毛糸を染めよう!」など

(3) 学習プログラムなど

遠足や校外学習で来園される未就学児や児童生徒に対し、学習プログラムやクイズ形式の解説を実施するとともに、出前授業や職場体験など幅広く植物について学ぶ機会を提供しています。

- ・学習プログラム「フィールドクイズ」「空飛ぶタネ」「冬芽をみてみよう」など

(4) 企画展関連イベントなど

植物に興味・関心を抱き、植物園に足を運んでもらうきっかけづくりとして、植物や牧野富太郎博士に関連した催しや、生きた植物の展示や教室、夜間イベントなどを開催しています。

- ・「春のフラワーショー」「標本展」「植物スタンプリング」「サボテンと多肉植物展」「オオオニバスにのろう!」「夜の植物園」「五台山観月会」など



こんこん山広場での春のフラワーショー

(5) その他

来園者への展示解説・植物解説、園外への講師派遣などを行っています。

※令和元年度入園者数:174,074人

4 研究型植物園として

牧野富太郎博士の研究業績を受け継ぎ、県内の自然環境を保全するための研究、調査を実施し、野生植物の分布や生育地の状況の把握に努めています。

また、県内で栽培が可能と思われる薬用植物資源の品目の選定を行い、約90%を外国産に依存している薬用植物の国内生産を視野に入れ、県内農家で実証試験栽培を行うなど、研究結果を県の産業振興に結び付けることを模索しています。

さらに、ミャンマーやソロモンで収集した豊富な植物の有用性を見出すためのエキスライブラリー化を進め、県内外の大学や企業との共同研究により、新薬や機能性食品などへ利用可能な植物の探索を行っています。

※牧野植物園ホームページ

<http://www.makino.or.jp/>

県立甫喜ヶ峰森林公園（林業環境政策課）

1 森林環境プログラムの実施

甫喜ヶ峰森林公園は、昭和53年に開催されました第29回全国植樹祭の会場として整備された後、県民の憩いの場、児童・生徒の学習の場として多くの県民の皆様に親しまれています。

公園の設置目的である、「県民への森林に関する知識の普及を図り、もって森林愛護の思想を高める」ために、森林環境プログラムを実施しています。



県立甫喜ヶ峰森林公園の様子

（1） 森の贈りもの届けます事業

学校関係の利用促進と森林環境学習の充実を図るため、森林の仕組みについての学習、間伐体験、ネイチャーゲームなどの体験プログラムを公園内で行ったり、学校などへの出張により実施しています。

（2） 里山林体験事業

里山林をうまく生活に取り込んでいた時代に行われてきたことや里山林の成り立ちや仕組みについて学習する機会として、しいたけのコマ打ち体験や収穫と試食体験などのプログラムを年間を通じて実施しています。

（3） 森あそび体験事業

未就学児とその家族を主な対象として、森の中で葉っぱや木々で遊んだり、絵本の読み聞かせをしたり、焼き芋作りなどの“森あそび”を年間を通じて実施しています。



中学生によるネイチャーゲーム



しいたけの収穫体験



森あそび体験